

し安定させる能力を有した下記のシリコンコポリマーを散布、含浸させる。

ii) 高含水箇所 SCP-01→SCP-01とSCP-02を配合→SCP-01

iii) 低含水箇所 対象土壌の含水率が30%程度になるよう水道水を散布する。

SCP-01→SCP-01、SCP-02、SCP-03を配合→SCP-01

製品名	分子量	HLB
SCP-01	600	10
SCP-02	3,500	6
SCP-03	2,000	7

エ) 雨水浸入対策工事

平成23年度に露出展示の安定化処理を実施したが、湧水により水溶性であるシリコンコポリマーが流出した可能性があり、安定した展示環境を整えるためには湧水防止対策が必要となった。そこで、雨水等の表面水及び盛土中の浸透水の覆屋への浸入を防止する工事を実施した。

- 暗渠工、暗渠排水工 延長57.0m
- 地先境界ブロック 延長16.8m
- 皿型側溝 延長16.0m
- 舗装工 総面積 約110m²
- 芝張工 総面積 231.0m²
- 遮水シート工事 総面積 約224.7m²
- 植栽工 高木 5本、低木 3箇所
- 屋外卓工事 1基

オ) ブラインド設置工事

既設の建具は窓ガラスを使用しており、遺構面に外光が直接当たっていたため、遺構面の乾燥、水分の蒸発、蘚苔類、カビ等の発生に影響を及ぼしていることが明らかとなった。そこで、展示面への日射を防止するためにブラインドを設置した。

- パーティカルブラインド 12基

カ) 排水工事

平成24年度の雨水対策工事により、表面水浸透による壁面および展示面からの水のしみ出しは防止する事ができたが、地下水の湧水が継続して観察された。地下水の影響を受けている範囲は、安定化処理が未処理の状態にあり、安定した展示環境を維持するには、地下水の露出展示面への影響を防止する必要がある。そこで遺構面の下方に釜場を設け、屋外のU字溝に排水するための露出展示排水工事を実施した。

- 集水枘工 1箇所 (H40cm)
- 集水工 延長3.0m、直径5cmの塩化ビニル管
- 集水ボーリング工 延長7.4m、直径5cmの塩化ビニル管

キ) 建具交換工事

既設の建具では扉が開放状態となるため、遺構面の乾燥、屋外の砂塵や種子、昆虫等の侵入が予想された。遺構面の乾燥、屋外の砂塵等の侵入防止のために、出入口の扉2箇所を自動的に閉じる構造（ハンガードア）に変更した。

- 使用建具（スムード戸袋なし二重型引き戸） 2基

ク) センサーライト工事

既設の照明設備は常時点灯状態のため、遺構面の乾燥、蘚苔類の発生、塩類の析出に影響を及ぼす可能性が指摘されており、人感センサーを設置し来館者の見学中についてのみ照明器具が点灯した展示環境を作り出すこととした。

- 人感センサー 1基

⑥今後の維持管理について

平成18年度の露出展示事前調査に始まり、平成23年度の露出展示棟完成から現在に至るまで、毎年2、3回、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の職員による現地指導を受け、観測データの収集および経過観察を継続的に実施し、露出展示の環境保全を行っている。

これまでのところ、蘚苔類の発生や塩の析出は部分的に認められるものの、様々な劣化を引き起こしている環境因子を改善することで、遺構の展示と保存が可能となるような対策を講じてきた。また、宮畑遺跡では遺構土壌への薬剤散布を最小限にとどめ、人の手による維持管理を行うこととしている。平成27年8月の開園により、覆屋内の空気換気量の増加など、環境の変化が予想されるが、今後も人の手による維持管理を進めるとともに、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の指導を受けながら、最適な環境の制御方法について検討を続けていく計画である。



第35図 露出展示パネル



36-1 発掘調査の様子



36-2 土器の出土状況



36-3 出土した縄文土器



36-4 露出展示棟工事前



36-5 基礎工事



36-7 屋内工事



36-8 底部分の工事



36-9 壁面断熱材工事



36-10 屋根断熱材工事

第36図 露出展示整備状況①



37-1 露出展示棟完成



37-2 発掘前の状況



37-3 露出展示状況



37-4 発掘調査の様子①



37-5 発掘調査の様子②



37-6 土器の出土状況①



37-8 土器の出土状況②



37-9 薬剤の噴霧



37-10 薬剤の塗布



37-11 屋外の観測機器



37-12 ブラインド設置工事



37-13 雨水対策工事①



37-14 雨水対策工事



37-15 排水工事 (施工前)



37-16 排水工事 (施工後)

第37図 露出展示整備状況②

第9章 体験学習施設

(1) 体験学習施設建築工事（国土交通省、図版35～46）

体験学習施設は、史跡公園の南東部に位置しており、国土交通省交付金により建築したものである。宮畑遺跡に暮らした宮畑縄文人の暮らしぶり、縄文人の心などを展示により伝えるガイダンスおよび体験学習を目的とした建物で、2階建ての建物であるが、全ての部屋は1階に集約させており、2階部分は休憩ラウンジと展望デッキのみとなっている。

1階の正面入口を入ると、入口導入部のスロープから開放感のあるエントランスホールに至る。エントランスホール（図版37）は、展示室、縄文工房・ホール、映像コーナー（図版44）、図書コーナー（図版43）、休憩コーナー（図版45）、サポータールーム、事務室等の各部屋に通じている。

縄文工房（図版39）とホール（図版40）は、パーティションにより区切った部屋（各室40～50名の収容人数）として使用しているが、イベントや講演会、大規模校等の見学の際には一体として使用することも可能である（最大100名程度）。

図書コーナー（図版43）では、目黒吉明氏（元宮畑遺跡調査指導委員会委員、元福島市文化財保護審議会委員）の寄贈図書（約6,000冊）のうち約1,500冊を常時閲覧できるように開架している。また、梅宮茂氏（元福島県考古学会会長）の寄贈図書（約500冊）についても、閲覧が可能となっている。

また、じょーもびあ宮畑は、施設職員だけでなく案内ガイドを行うボランティアが常駐するためのサポータールームを設置し、ボランティアの自主的な活動を支援する体制を整えている。

管理用スペースとしては、事務室、会議スペース、給湯室、職員用トイレ、更衣室を配置しており、施設の専従職員が施設の管理、運営が行える体制としている。

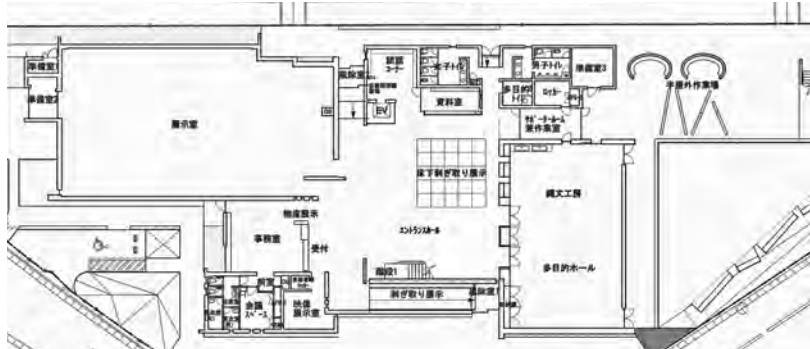
施設には建物の内部から使用する倉庫1箇所（ロッカー）、外側から使用する倉庫3箇所（準備室1～3）があり、中倉庫では体験学習で使用する道具や材料の保管、外倉庫では施設の維持管理にかかる備品や道具を保管している。

半屋外作業室は展望デッキの下部に位置しており、体験道具等の準備スペースあるいは来園者の屋外の活動や休憩スペースとして使用しており、屋外活動の際の水が使用できるように水道を設置している。

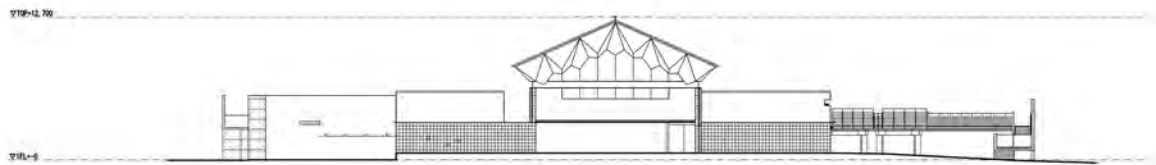
2階の展望デッキ（図版46）からは、じょーもびあ宮畑の全景を2階から俯瞰できる。100名を超える大規模校等の見学者が一度に宮畑遺跡を見渡せるように長さ約40mのデッキとなっており、施設内からだけでなく、外階段を設置している。



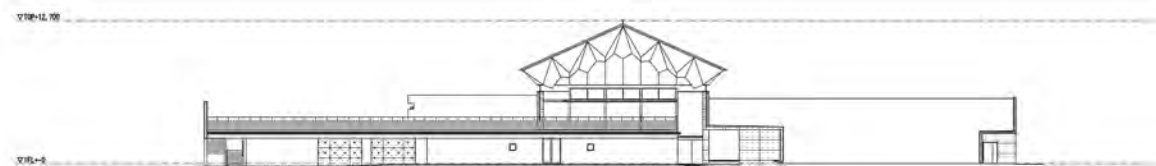
38-1 2階平面図



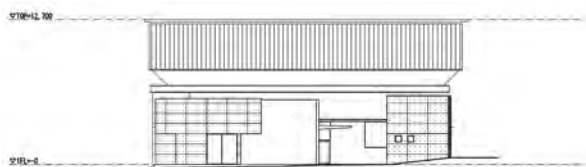
38-2 1階平面図



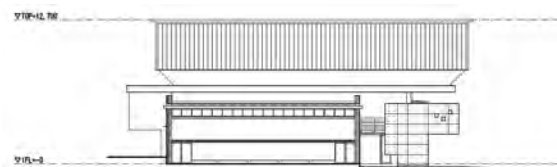
38-3 立面 (南側)



38-4 立面 (北側)



38-5 立面 (西側)



38-6 立面 (東側)

第38図 体験学習施設平面図・立面図

階	場所	面積(m ²)
1階	風除室1	7.53
	風除室2	5.29
	エントランスホール	269.46
	談話コーナー	16.53
	資料室	12.54
	展示室	315.5
	映像展示室	17.76
	来館者用ロッカー	2.49
	多目的ホール	87.25
	縄文工房	87.24
	事務室	59.63
	前室	4.58
	会議スペース	11.77
	給湯室	4.31
	更衣室(男)	3.18
	更衣室(女)	5.14
	職員用男子トイレ	1.74
	職員用女子トイレ	1.61

階	場所	面積(m ²)
1階	サポータールーム兼作業室	17.09
	男子トイレ	18.66
	女子トイレ	18.93
	多目的トイレ	6.76
	ロッカー	7.77
	準備室1	4.48
	準備室2	10.77
	準備室3	17.35
	半屋外作業室1	6.28
	半屋外作業室2	3.49
	その他	5.58
	1F合計	1,030.71
	2階	休憩ラウンジ
エントランスホール2(展示ギャラリー)		26.80
その他		14.91
2F合計	75.44	
合計		1,106.15

第14表 体験学習施設 施設一覧

建築工事 工事名 平成24年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園

体験学習施設(建築本体)工事

敷地条件	敷地面積 38,803.42m ²
法規制	防火地域 都市計画区域内 市街化調整区域
建築概要	構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、木造
	規模 建築面積 1,187.67m ²
	建床面積 1,106.15m ²
	1階 1,030.71m ² 2階 75.44m ²
	合計 1,106.15m ²
土工事	根切り、床下房室、断熱処理
コンクリート工事	コンクリート各種
型枠工事	型枠各種
鉄筋工事	鉄筋各種
屋根鉄骨工事	屋根鉄骨各種
木造大断	エントランスホール、縄文工房・ホール
屋根工事	アスファルト防水、シート防水、ステンレス鋼板葺
床下展示工事	鉄骨工事、ガラス工事
ガラス工事	窓ガラス
建具工事	金属建具、木製建具、アルミ建具
自動ドア工事	1基
エレベーター工事	定員11名 1台

サイン工事	サイン各種
外部仕上げ	外壁コンクリート打ち放し、シリコン塗装 コンクリート化粧型枠打ち放し、超耐久性撥水剤

**機械設備① 工事名 平成24年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園
体験学習施設（機械設備）工事**

冷暖房設備	床輻射暖房設備
換気設備	ダクト設備
給水設備	給湯設備、加圧ポンプ
排水設備	

**機械設備② 工事名 平成26年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園
体験学習施設（機械設備）工事**

冷暖房設備	エアコン、室外機、室内機
換気設備	空調換気扇、天井換気扇
衛生器具設備	便器、洗面器、温水器、消火器
屋外給水設備	散水栓、不凍水抜栓
屋外排水設備	屋外排水枡

**電気設備① 工事名 平成24年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園
体験学習施設（電気設備）工事**

幹線設備	
動力設備	
電灯設備	照明設備、スイッチ、分電盤
弱電設備	
非常照明、誘導灯設備	各種非常照明、誘導灯
情報通信網設備	インターネット回線、ハブ収納盤
電話配管配線設備	電話ケーブル配線
呼出設備	警報ランプ、インターホン、モニター
放送設備	アンプ、埋め込みスピーカー
監視カメラ設備	ドーム型カメラ
自動火災報知設備	熱感知器、煙感知器、中継器、受信機
機械警備配管設備	アウトレットボックス
融雪ヒーター設備	

**電気設備② 工事名 平成26年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園
体験学習施設（電気設備）工事**

受変電設備	キュービクル、高圧受電設備
-------	---------------

屋外電灯設備

屋外配線設備 露出展示室電気配線

構内通信線路設備

電気設備③ 工事名 平成26年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園

体験学習施設展示工事（電気設備）

展示室電灯設備

屋内電灯配管、配線

展示用分電盤設置

外構工事 工事名 平成26年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園

体験学習施設外構工事

キュービクル周辺整備 土留め、フェンス

敷地内舗装 アスファルト、平板ブロック

車いす用駐車場整備 車止めブロック、車いす表示

進入口切り下げ 境界ブロック

築山、芝貼り

展示工事 工事名 平成26年度社会資本整備総合交付金事業宮畑遺跡史跡公園

体験学習施設展示工事

パーテーション 展示室区画

展示台等什器 展示棚、展示ケース、免震台

床工事 タイルカーペット

映像設備設置 ディスプレイ、プロジェクター、スピーカー、
露出展示データログ

展示製作 委託名 平成26年度宮畑遺跡環境整備事業体験学習施設内展示制作業務委託

造作物 縄文モニュメント、直径90cmの柱

展示什器 展示台、展示ケース

模型造作 地層剥ぎ取り、書割り、タイムスリップロード

グラフィック 展示パネル

映像ソフト 120度スクリーン、映像コーナー

映像機器システム 120度スクリーン、映像コーナー

情報検索モニター 映像モニター

(2) 展示 (国土交通省、市単独、図版38, 41, 42、47～50)

①体験学習施設屋内展示について

展示では、宮畑縄文人の暮らしぶりを伝えるとともに、宮畑遺跡の特徴である、90cmの巨大な柱、焼けた家、送りと祈り、アスファルトなどに焦点を当て、宮畑遺跡ならではの展示構成をしている。

展示機能は、入口導入部の「地層断面剥ぎ取り」(Ⅰ)、エントランスホールの「焼失住居床下展示」(Ⅱ)、「タイムスリップロード」(Ⅲ)、展示室(Ⅳ～Ⅷ)、映像コーナーの映像ソフト(Ⅸ)により構成される。

体験学習施設の正面入り口を入ると、アプローチの通路部分に導入展示として「土層断面剥ぎ取り」を壁面展示している。アプローチを抜けたエントランスホールには、「焼失住居の床下展示」があり、屋外では復元された竪穴住居、屋内では発掘された竪穴住居の様子を見学できる。

エントランスホールから展示室への導入としてタイムスリップロードを位置付け、現代から宮畑遺跡へタイムスリップする感覚を演出するとともに、縄文モニュメントにより展示の期待感を醸成している。

展示室(図41-1)は、円形を呈した「縄文の四季コーナー」で縄文人の四季の暮らしぶりを120度スクリーンと書割によって視覚的に解説し、その後の3つの常設展示コーナーにつなげている。常設展示コーナーは「建築技術」「縄文人の送りと祈り」「交流」をテーマにし、宮畑遺跡の特徴を活かした展示内容としている。また、展示室の最後には、企画展示コーナーを設置し、宮畑遺跡だけではなく福島歴史と文化にかかる展示のできる可変的空間を確保した。

I. 縄文時代の土木工事の跡(図版41、図39-1)

この地層は、縄文時代後期の窪地を縄文人が埋め立てた土木工事の痕跡であり、場所により約1mの埋め立てがされている。土層中には実際に出土した縄文土器や石がそのまま展示されており、発掘の様子を臨場感を持って体感できる。

○遺物展示 地層断面剥ぎ取り 長さ8m×高さ約2m

II. 焼失住居の床下展示(図版38、図39-2)

エントランスホールの床下には、平成20年度の調査で検出された中期の焼失住居(39号住居跡)の剥ぎ取り展示を行っている。実際に検出された遺構をそのままの状態で見学し、出土遺物、複式炉、焼けた土の状況を見学することができる。

床下展示のガラス面は6,000mm×6,000mmで、強化ガラスを使用しており、団体等の見学の際もガラスの上から展示資料を見学することが可能である。また、文字解説を補完するために2台のモニター画面を設置し、焼失住居の解説、発見から剥ぎ取り展示の製作までの過程を映像で解説している。

○展示 焼失住居の剥ぎ取り

○モニター 焼失住居の解説、焼失住居の発見から剥ぎ取り展示の製作まで

Ⅲ. タイムスリップロード (図39-5)

タイムスリップロードは、エントランスホールから展示室中央部への展示導入部に位置する。入口部分のモニターでは「ようこそ縄文時代の宮畑へ」というタイトルで、展示を見学するにあたっての宮畑遺跡の見所を映像でわかりやすく解説している。

続くタイムスリップロードでは日本と福島市の歴史を絵巻物として視覚的に展示するとともに、それに関連した出土遺物を展示し、展示室の主題となる宮畑遺跡・縄文時代への導入解説としている。

(1) (映像1)「ようこそ縄文時代の宮畑へ」

○人類誕生～縄文時代～現代

○宮畑縄文むらへの誘い

○3つの時代が重なっている (中期のむら、後期のむら、晩期の建物群)

○宮畑遺跡の二大ミステリー (直径90cmの巨大な柱、焼けた家)

(2) タイムスリップロード

○<下段>福島の歴史上の出来事、日本の歴史上の出来事、<上段>内照式グラフィック

(平成、昭和) わらじまつり、果物、温泉、東北新幹線開通、路面電車

(明治時代) 福島市、日本銀行福島出張所、福島町役場

(江戸時代) 福島城、福島城絵図、大手門絵図、板倉勝重像

(中世) 大仏城、伊達氏、伊達晴宗、伊達植宗、信夫庄、佐藤氏、佐藤継信、佐藤忠信

(古代) 信夫国造、大蔵寺の仏像、墨書土器、腰浜廃寺の瓦

(古墳時代) 月ノ輪山一号墳、かまどのある竪穴住居、稲荷塚古墳

(弥生時代) 稲作、台畑遺跡

(縄文時代) 縄文土器、人体文土器、土偶、草創期の土器、草創期の石器群

○遺物展示

三引両椀 (室町時代)、腰浜廃寺瓦 (平安時代)、頭椎大刀 (古墳時代)

(3) 縄文モニュメント (図39-3)

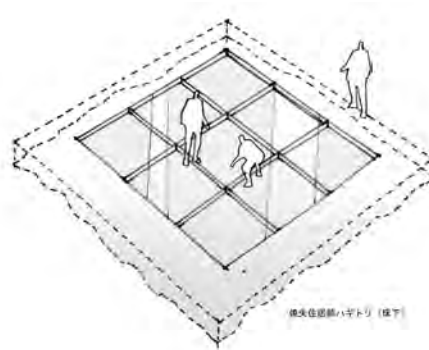
「縄文の四季コーナー」の前室にあたる。視覚的に縄文時代をイメージさせるよう、宮畑遺跡で出土している縄文土器の文様をモチーフとした、木製のレリーフ(縦2.2m・横1.8m)を作成している。

Ⅳ. 福島 of 自然と人々の暮らし (ループ映像)

縄文の四季コーナーは円形を呈している。正面上部の壁面 (120度分) および中央の円形ステージをスクリーンとして使用し、映像「縄文の四季」を繰り返し投影している。120度スクリーンで



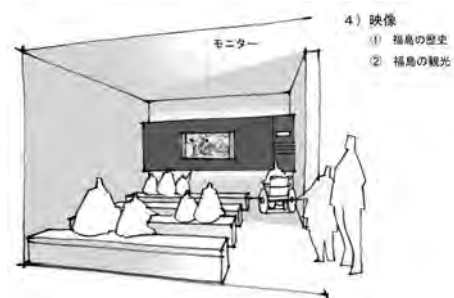
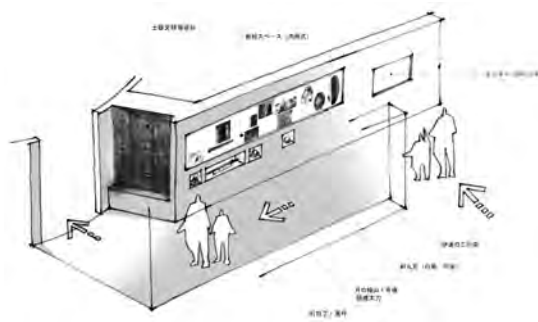
39-1 地層断面展示



39-2 住居剥ぎ取り展示



39-3 モニュメント



39-4 映像コーナー



39-5 タイムスリップロード

第39図 体験学習施設展示

は福島の子の四季の景観映像を投影し、雄大な福島の子の自然のイメージを体感できる構成とした（図40-1、2）。

また、縄文の子の四季コーナーの中央に位置する円形ステージでは、「縄文の子の四季」の映像とリンクした縄文の子の暮らしぶりを影絵風に投射している。各季節はイメージカラーを意識し、視覚的に縄文時代の生活を理解できるような構成としている。

(1) (映像2)「縄文の子の四季」

- オープニング（炎、縄文土器）
- 春の到来＜萌黄色＞（雪うさぎ、山菜、新芽の芽吹き、土器づくり、シカ、イノシシ、タヌキ、ウサギ）
- 夏の息吹＜青色＞（緑の森、昆虫、漆かき、積乱雲、雷、阿武隈川の水面、川魚）
- 色づく秋＜赤、橙色＞（紅葉、クリ、どんぐり、トチノミ、水さらし、きのこ）
- 冬の訪れ＜白＞（雪景色、落葉した森、雪の上の動物の足跡、狩り）

V. 縄文の子の四季（図版47、図40）

縄文の子の四季コーナーの壁面展示は、書割り・壁面グラフィック（図40-3）・遺物展示により構成されている。書割りは一枚の絵を10枚程度に切り抜き、立体的かつ奥行きのあるジオラマのように見せる手法で、各季節の縄文の子の暮らしぶりを展示している。壁面グラフィックでは季節の活動をより詳しくイラストにより解説し、遺物展示ではその関連資料を展示している。

(1) 春 「春の恵みと土器作り」（図40-4）

①書割り

- ア) 場面 春の集落の一場面 5月下旬頃
- イ) 時期 縄文時代中期（屋外展示の竪穴住居の時期）
- ウ) 情景 【主景】 竪穴住居内での食事準備風景 【周辺】 周辺の集落風景

②壁面グラフィック「春のめぐみと縄文料理」

- 縄文の子の食糧

③遺物展示

- 縄文土器（深鉢）…おこげ、煮炊きの痕跡のある土器

(2) 夏 「漆かき」（図40-5）

①書割り

- ア) 場面 夏の阿武隈川 8月
- イ) 時期 縄文時代中期
- ウ) 情景 【主景】 集落の北山での漆樹液の採取 【背景】 集落近くの窪地の地形

②壁面グラフィック「縄文の子の漆利用」

- 漆の精製過程

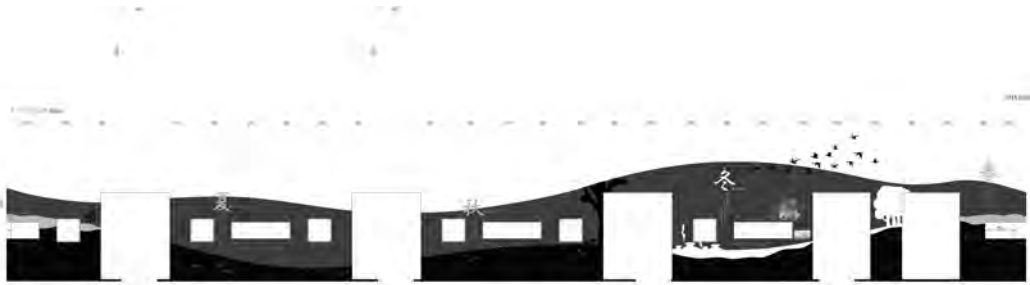


映像スクリーン
5. 四季（自然環境と生活・食）
4. 宮内周辺の遺跡と宮内情報

40-1 実施設計でのイメージパース



40-2 完成したコーナー



40-3 縄文の四季 壁面展開



40-4 春「春の恵みと土器作り」



40-5 夏「漆かき」

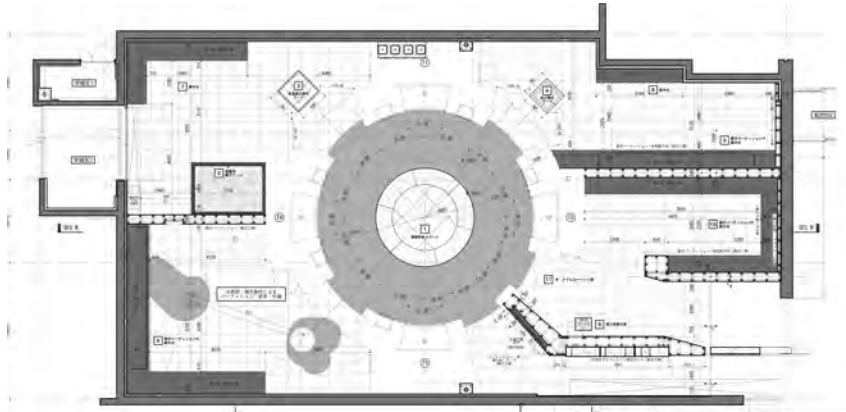


40-6 秋「縄文人と秋の恵み」



40-7 冬「縄文人の冬」

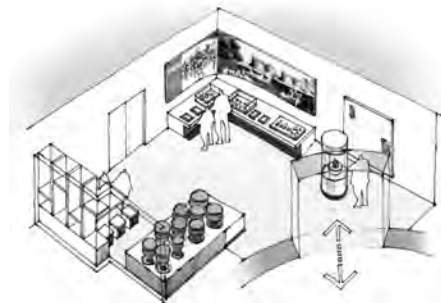
第40図 縄文の四季コーナー



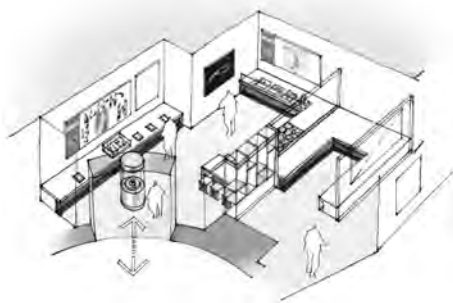
41-1 展示室平面図



41-2 「直径90cmの柱から見える縄文社会」



41-3 「縄文人のおくりといのり」



41-4 「縄文時代の人と地域のつながり」

第41図 展示室平面図・常設展示

③遺物展示

○漆容器（宮畑遺跡）

○漆塗り製品（縄文土器、耳飾り：上岡遺跡、宮畑遺跡）

(3) 秋 「縄文人と秋の恵み」(図40-6)

①書割り

ア) 場面 秋の集落周辺 10月下旬

イ) 時期 縄文時代後期（トチノミ利用が行われた時期）

ウ) 情景 【主景】トチノミを加工する縄文人（穀割り、水さらし）

【背景】 竪穴住居と周辺の樹木

②壁面グラフィック「縄文人の主食どんぐり」

○どんぐりの加工 敲石（割る）→石皿・磨石（すりつぶす）→こねる→焼く

③遺物展示

○石皿、磨石、敲き石、キノコ形土製品

○保存処理したトチノミとクルミ

(4) 冬 「縄文人の冬」(図40-7)

①書割り

ア) 場面 冬の東の山 1月

イ) 時期 縄文時代後期

ウ) 情景 【主景】冬山での落とし穴猟（イノシシ、縄文犬、遠くの動物を狙う弓矢）

【背景】 はるか遠くに竪穴住居と樹木、阿武隈川

②壁面グラフィック「縄文カレンダー」

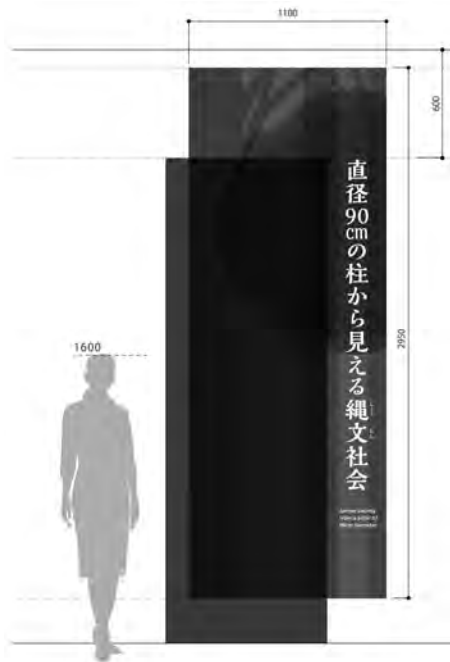
③遺物展示

○石鏃、石匙、動物の骨

円形を呈した縄文の四季コーナーは、宮畑遺跡の特徴を示す3つの常設展示コーナー（Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ）と1つの企画展示コーナーにつながっている。3つの常設展示は、それぞれの展示に関連するイメージカラー（緑、赤、青）を定めて、導入部のタペストリー、展示パネルの背景色等に使用し、視覚的に展示を理解できるような工夫をしている。また、各コーナーにモニター画面を設置し、説明的な文字解説はモニター画面に集約するようにした。

Ⅵ. 建築技術「バナー 直径90cmの柱に見る縄文人の心」(図版48、図41-2、図42、図43)

宮畑遺跡の特徴である90cmの巨大な柱をもつ掘立柱建物と縄文時代の建築技術をテーマにしている。宮畑縄文人は、むらのリーダーを中心に共同作業で巨大な建物を建てたというストーリーに基づき、グラフィックにより視覚的に解説を行うとともに、市内にあるもう1つの掘立柱建物をもつ



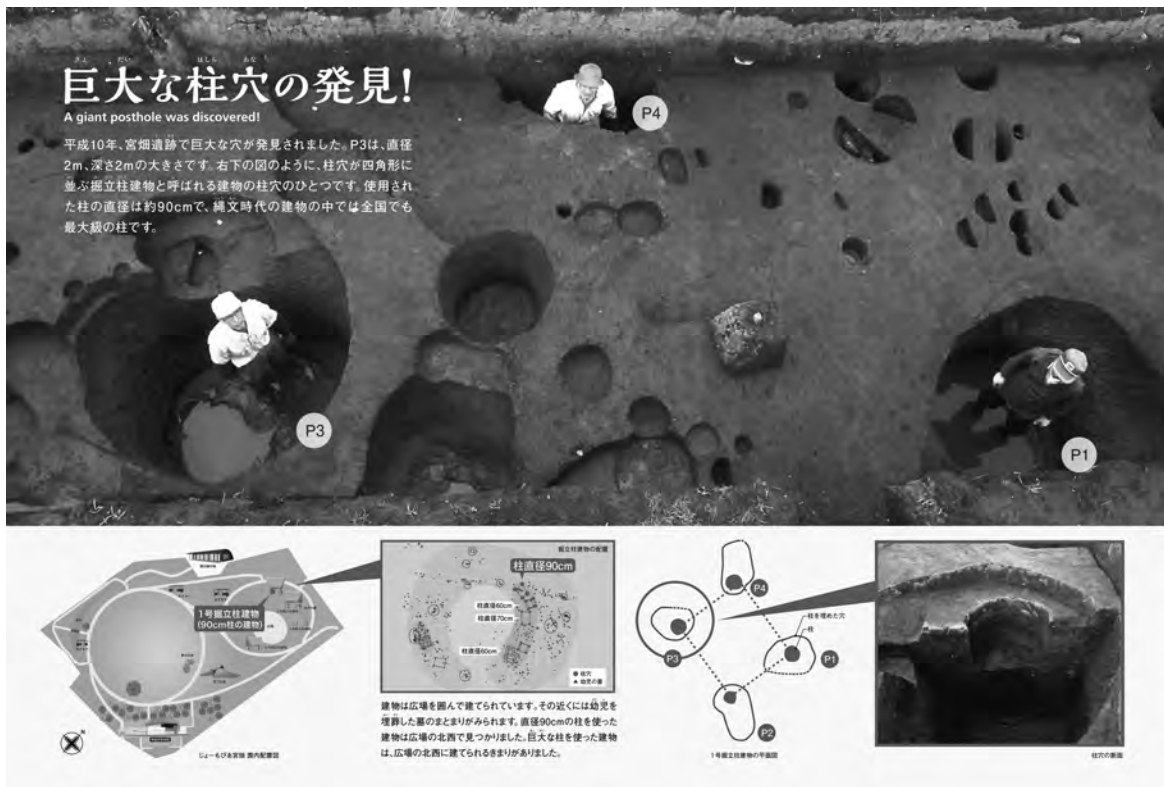
42-1 バナー



42-2 大見出し



42-3
90cmのクリの木
(複製品)



42-4 巨大な柱穴の発見

第42図 直径90cmの柱から見える縄文社会①

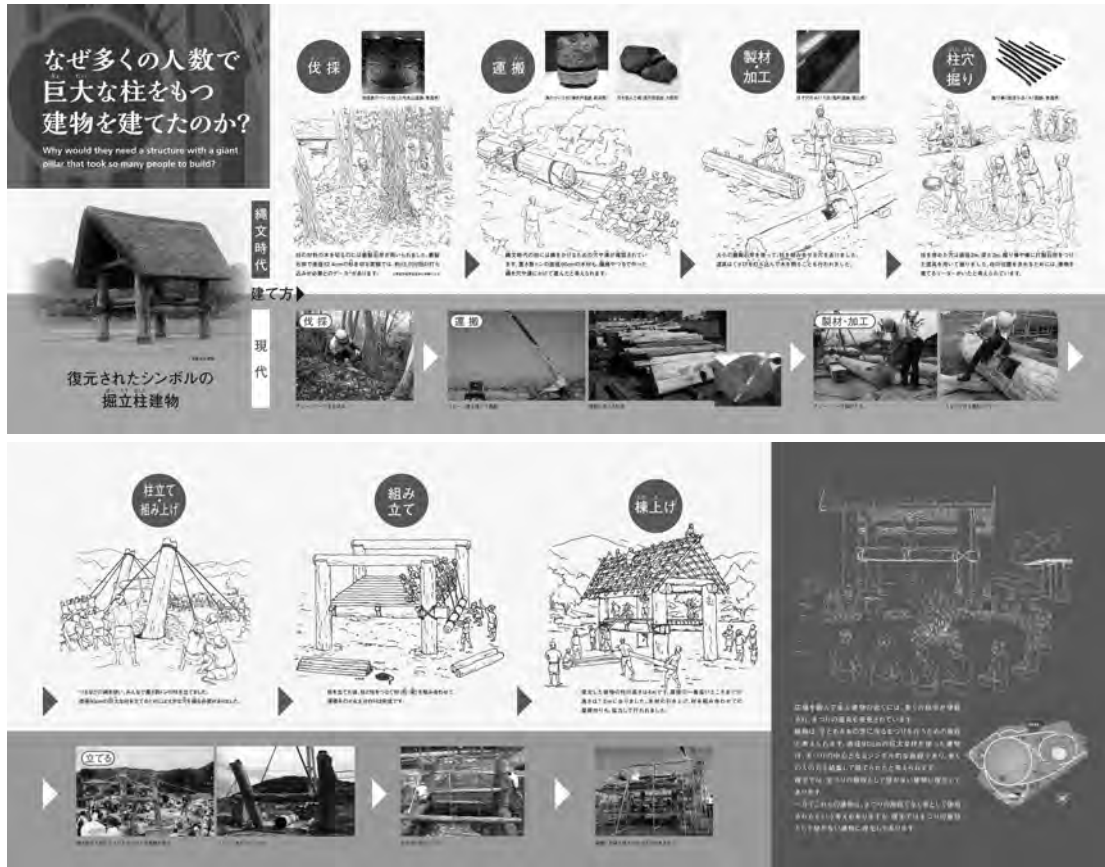
南諏訪原遺跡を紹介している。

- ①「巨大な柱穴の発見！」(図42-4)
 - 写真 直径90cmの掘立柱建物検出状況
 - 模型 90cmのクリの木(図42-3)
- ②「なぜ多くの人数で巨大な柱をもつ建物を建てたのか？」(図43-1)
 - イラスト 「直径90cmの柱の伐採と運搬」(石斧での伐採、運搬作業)
 - イラスト 「直径90cmの柱の組立て」(柱穴掘り、柱の立て込み、棟上げ、完成とまつり)
 - 遺物展示 打製石斧・磨製石斧(大・中・小)、打製石斧・磨製石斧復元品
 - 模型 1号・2号・5号・10号掘立柱建物、49号竪穴住居
- ③南諏訪原縄文むら「宮畑縄文むらとの違いは？」(図43-2)
 - 写真 南諏訪原遺跡全景、45号住居跡全景、掘立柱建物(亀甲形)
 - 遺物展示 縄文時代の家財道具(45号住居跡出土の縄文土器 13個体)
- ④モニター
 - 全国でも数少ない巨大な柱
 - 共同作業で構築した建物
 - 周辺のむらのシンボル
 - 巨木信仰
 - 建築技術(ホゾのある柱材、くさび、縄を巻き付けた石)

Ⅶ. 縄文人のくらしとまつり「バナー 縄文人の送りといのり」(図版49、図41-3、図44~46)

導入展示として重要文化財の上岡遺跡出土土偶(図44-3)を実物展示し、縄文人がどのような思いを込めて土偶を作ったのか縄文人の心に迫る展示構成となっている。また、中期のむらでは家を焼きあの世に送るまつり、後期のむらでは土器に宿る神をあの世に送るもの送りのまつり、晩期には幼児の墓での死者を弔うまつりが行われており、時代を限定せず、縄文人の送りと祈り、縄文人の心にかかわる展示内容としている。

- ①「土偶に込められた縄文人の心」
 - 遺物展示 上岡遺跡出土土偶(国重要文化財)(図44-3)
 - イラスト 「上岡土偶を作る女性」(図44-4)
 - 駒田晶子(福島市出身の歌人)
 - 生まるるは 君かわたしか昨日今日 明日も土偶はしゃがみつづける
 - 古代より 屈める人の身めぐりに 立てばわたしに吹く風あり
- ②「土偶の始まりは女性！」(図44-5)
 - 組み写真 土偶の変遷(出現期の土偶、板状土偶、立像土偶、屈折土偶、遮光器土偶)
 - 遺物展示 市内最古の土偶(宇輪台遺跡)、市内出土土偶(大・中・小)



43-1 なぜ多くの人で巨大な柱をもつ建物を建てたのか？



43-2 宮畑縄文むらとの違いは？

第43図 直径90cmの柱から見える縄文社会②

- ③「なぜまだ使える土器が屋外でたくさん発見されるのだろうか？」(図45-1)
- イラスト 土器を送って祈りを捧げる人々(図45-2)
 - 遺物展示 もの送り場で見つかった縄文後期の資料(注口土器、異形土器、土偶、)
その他の祭祀資料(石刀・石剣類、イノシシ形土製品・海獣形土製品、イモガイ
形石製品(上岡遺跡))
 - イラスト 火・酒・土偶を用いたまつり、まつりを司る仮面をつけたシャーマン
- ④「家を焼く」(図45-3、4)
- イラスト 家を焼いて送る人々
 - 遺物展示 焼失住居の焼土塊、宇輪台遺跡の焼失住居で見つかった家財道具(縄文土器9個体)
- ⑤「なぜ、幼児は土器に埋葬されたのか？」(図46-1)
- 写真 掘立柱建物と幼児の墓の位置関係
 - イラスト 縄文人の墓(埋甕と大人の墓)
 - 遺物展示 幼児の墓に使用された縄文土器 11個体
- ⑥モニター
- グラフィック「宮畑遺跡の謎全国にも例がない半数近くの焼かれた家」
 - 各地の土偶 国宝・重要文化財になっている土偶「その出現と変遷」
 - 縄文のシャーマン、首長、部族
 - 縄文人と弥生人のまつり

Ⅷ. 交流・文化圏「バナー縄文時代の人と地域のつながり」(図版50、図41-4、図46~49)

宮畑遺跡ではアスファルトを保管した小型の容器が見つまっている(図48-2)が、アスファルトは石油の産地でしか採取のできない資源である。アスファルトの精製実験の様子、市内のアスファルト関連資料を展示し、遠隔地との交流の中でアスファルトを運んだ道を想起させるような展示とした。また、南東北地方に特徴的な複式炉をテーマに、土器分布圏とは異なる範囲で広がる物資(アスファルト、黒曜石、ヒスイ)に着目し、ものと人の動き、相互に補完・扶助して共生する縄文社会のネットワークについて解説している。

- ①「縄文時代にアスファルト？」(図46-2)
- グラフィック アスファルト産地(新潟県：金津油田、黒川油田、秋田県：豊川油田、駒形
油田)
 - 写真 豊川油田の天然アスファルト採掘
- ②「なぜ油田から離れた縄文むらにもアスファルトが？」
- グラフィック 東北地方のアスファルト関連資料(北海道豊崎N遺跡、豊崎B遺跡、磨光B
遺跡、秋田県漆下遺跡、新潟県大坂道上遺跡)



44-1 バナー



44-2 大見出し



44-3 国重要文化財
しゃがむ土偶(上岡遺跡)



44-4 駒田晶子氏の歌

土偶に込められた縄文人の心

Ceramic figures showing the Jomon spirit

最古の土偶に顔の表現はありませんが、乳房は表現されています。土偶は、縄文時代の終わりまでの約1万年間、安産・子の成長・災いのない暮らしなどの願いを込めて、女性を表現して作られ続けます。

土偶のはじまりは女性

土偶はずっと女性がモデル

- 1万2000年前: 身体表現 (乳生類の土偶 (根谷原遺跡・道喜遺跡))
- 3500年前: ポーズ表現 (しゃがむ土偶 (上岡遺跡))
- 4000年前: 立つ自立表現 (縄文の女神 (西ノ前遺跡・山形県))
- 5500年前: 人の顔 (板状土偶 (三内丸山遺跡・青森県))
- 2500年前: 装飾表現 (鹿角土偶 (亀ヶ岡遺跡・青森県))

いろいろな表情の土偶

女性を表現した土偶ですが、女性らしい顔に出会うことはありません。目や口が隠れていたり、顔に穴が開いていたりします。まつりを行うシャーマンの仮面をかぶっている様子や、顔に羽根をつける様子が表現されていると考えられます。

- 宮城遺跡: 和台遺跡
- 月崎遺跡: 和台遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡
- 宮城遺跡: 月崎遺跡

耳・鼻・口彫土製品 (八丈遺跡・岩手県)

土器 (天神甲遺跡)

縄文人はまつりや儀式の時に、仮面をつけていたと考えられており、市内でも土器が見つかっています。

羽根飾りを付けた人物 (御所野遺跡・岩手県)

土器に描かれた顔に羽根飾りをつけた人物です。シャーマンの様子を表現したと考えられます。

鹿や鳥などにつけて仮面を付けた表現が見られます。

44-5 土偶に込められた縄文人の心

第44図 縄文人のおくりといのり①

なぜまだ使える土器が屋外でたくさん発見されるのだろうか？

Why has so much usable ceramic pottery been found outdoors?

後期のむらの東のはずれから、煮炊きに使われた土器やまつりに使われた土器、土偶などが発見されました。土器は壊れた破片のほか、まだ使える土器も発見されました。ここは、土器にもカミが宿っていると考えた縄文人が、使い終わった土器などの道具をカミに送る(返す)儀式を行った場所だと考えられます。



45-1 なぜまだ使える土器が屋外でたくさん発見されるのだろうか？



45-2 もの送りの儀式

宮畑縄文むらの大きな謎

The big mystery of the Jomon Village at the Miyakata Site

なぜ、半数の家を焼いて送ったのだろうか？



中期の家は層状に土をのせていました。土層状の家は燃えにくく、燃やすためには、屋内の燃料に火をつけた後、屋根に穴をあけて空気が入るようにしたり、燃料の追加などにより火の勢いを保つことが必要です。中期のむらでは、燃えにくい土層状の家の約半数を燃やしています。家を燃やし、カミに返す「家送り」が行われたと考えられます。燃やす家が選ばれた理由と、なぜ宮畑遺跡の中期のむらだけ多くの家を燃やす「家送り」が行われたのかは謎です。

家を焼く

Burning pit dwelling

中期のむらでは、調査した46棟の家(竪穴住居)のうち22棟(47.8%)が焼かれています。同じ中期のむらである和台遺跡(飯野町)では、230棟の竪穴住居が発見されましたが、焼かれた家はありません。これほど多くの家が焼かれた縄文むらは、全国でも他に例はありません。



45-3 家を焼く

第45図 縄文人のおくりといのり②

45-4 なぜ、半数の家を焼いて送ったのだろうか？

なぜ、幼児は土器に埋葬されたのか？

Why were children buried in ceramic pottery vessels?

縄文時代には、幼児が死ぬと土器に入れて埋め、あの世に送りました。家の中や家の近くなど母親が生活する場所に埋葬しています。ふたたび母親のおなかに戻ることを願ったのでしょうか。

大人の墓



大人は地面に穴を掘ってあの世に送りました。宮畑遺跡では、縄文時代中期・後期・晩期のいずれの時期も大人の墓はまだ見つかっていません。大人の墓は、ふだんの生活の場から離れた場所にあったようです。

幼児の墓



宮畑遺跡の縄文時代晩期の幼児の墓は、あの世に送るための施設と考えられる掘立柱建物群の近くに作られました。十数基の幼児の墓のまどまりが数カ所見つかっています。家族単位などで埋葬する場所が決まっていたのかもしれない。



幼児の墓第4群



掘立柱建物の近くに作られた幼児の墓



幼児の墓第1群
幼児の墓第2群
幼児の墓第3群

1号掘立柱建物
2号掘立柱建物
5号掘立柱建物

1号掘立柱建物
2号掘立柱建物
5号掘立柱建物

幼児の墓第1群
幼児の墓第2群
幼児の墓第3群

● 柱穴
▲ 幼児の墓



幼児の墓の発掘状況

46-1 なぜ、幼児は土器に埋葬されたのか？

縄文時代にアスファルト？

Asphalt in the Jomon Age?

天然アスファルトは日本海側の油田地帯にあります。秋田県の豊川油田では明治時代には大規模な採掘が行われていました。

アスファルトの採掘風景



縄文時代の豊川油田。土産物(天然アスファルト)は縄文期まで採掘された

大正時代には和歌山の豊川油田の採掘の様子

駒形油田



オイルサンド層は採掘時の土塵

石の割れ目から天然アスファルトが染み出ている

山越・蟹の木油田

豊田油田

豊川油田



豊田では天然アスファルトが染み出ている

現在の豊田町の採掘跡

黒川油田



油層では厚層が透き出ている

金津油田



油層では厚層に天然アスファルトが染み出ている

沢では湧き水とともに厚層が透き出ている

島海山油田

東山油田

西山油田

宮畑遺跡



● アスファルト産物出土遺跡
● アスファルト加工施設
★ アスファルト産物 埋土土層
□ 縄文人が利用したと思われる
原産地の採掘遺跡
■ 原産地の採掘遺跡の遺構
□ 遺構跡

0 100m

46-2 縄文時代にアスファルト？

第46図 縄文人のおくりといのり③、縄文時代の人と地域のつながり①

③アスファルトの精製実験

- 資料展示 精製実験で使用した土器、アスファルタイト（金津油田）
- モニター アスファルトの採取と精製実験

④「縄文人はアスファルトをどのように利用したのか？」（図47-3）

- グラフィック 縄文時代のアスファルト関連遺物（保存容器、精製道具、付着資料）
- イラスト 装着、紐巻き、補修、象嵌
- 遺物展示 市内アスファルト付着遺物（図48-3）

⑤「宮畑縄文むらに通じる道は？」（図48-1）

- イラスト 川沿いの交易拠点に向かって歩く縄文人

⑥「複式炉を使用した縄文人のむら（図48-4、5）

- 写真 宮畑遺跡の複式炉、複式炉の命名（飯野白山遺跡）、複式炉の使われ方

⑦「福島市内の複式炉のむら」（図49-2）

- 遺物展示 市内遺跡の複式炉埋設土器（宮畑遺跡、月崎遺跡、和台遺跡、愛宕原遺跡）

⑧「土器を共有する地域の広がり」（図49-3）

- イラスト 各地方の縄文土器（円筒土器圈、大木式土器圈、曾利式土器圈、加曾利E式土器圈）
- モニター 物と人の動き（アスファルト・黒曜石・ヒスイ）、相互に補完・扶助して共生するネットワーク社会

IX. 映像コーナー（図版44、図39-4）

宮畑遺跡や福島市の概要を解説する2種類の映像コンテンツを備えており、来園者が選択して鑑賞できるようにしている。「宮畑遺跡の全貌を追う」（6分15秒）は宮畑遺跡の発見から整備までの経過をまとめたコンテンツ、「宮畑遺跡と福島市の魅力～受け継がれし歴史遺産と風土～」（6分33秒）は、福島市の歴史・文化・観光を解説するコンテンツとなっている。

（1）（映像3）「宮畑遺跡の全貌を追う」

- 発見時の新聞記事
- 昭和36年埋蔵文化財包蔵地カード
- 平成6年度試掘調査 トレンチは総延長3km
- 平成9年度発掘調査 直径90cmの柱穴の発見、焼けた家の発見
- 平成10～13年 遺跡範囲確認調査
- 平成15年8月27日 国史跡指定
- 宮畑遺跡の特徴
 - ・縄文中期、後期、晩期の集落
 - ・複式炉と焼失住居（中期）、敷石住居、埋め立て工事と土器送りの場（後期）、数多くの柱穴、広場を囲む掘立柱建物と幼児の墓（晩期）
- 平成16年度～ 史跡整備



47-1 バナー

なぜ油田から離れた縄文むらにもアスファルトが?

How could Jomon Village make asphalt with oil fields so far away?

日本海側の油田地帯にあるアスファルトが、原産地ではない東北地方の太平洋側の縄文むらでも多く発見されています。縄文時代には奥羽山脈をはさんでアスファルトを多くのむらに運ぶ物流ネットワークが作られていました。

47-2 なぜ油田から離れた縄文むらにもアスファルトが?

縄文人はアスファルトをどのように利用したか?

How did the Jomon people use asphalt?

アスファルトは、土器などの容器に入れて運ばれています。むらの中では、家のいりりなどで少しずつ溶かして利用しました。宮宿遺跡ではアスファルトがついた石鏃・石匙が発見されています。石鏃を矢につけたり、石匙に結んだ紐を固めたりするのに利用されています。他の縄文むらでは、土器を直す接着剤や土偶の目を描く絵の具のように使われた例もあります。

溶かす

（宮宿遺跡・野手集）

大宮土器片でアスファルトをせとせで溶かしています。

装着	紐巻き	描く	補修
<p>石鏃やヤスを柄に塗ることで摩擦増大としてアスファルトを使っています。</p>	<p>標準用ナイフの石鏃や釣り針に糸の紐を巻きつけるため、アスファルトを塗っています。</p>	<p>非常に少ない事例ですが、土偶の目にアスファルトを塗り、顔を描いていることも見られます。</p>	<p>破れた土器や土偶を修復するとも、破れ口にアスファルトを塗っています。</p>

47-3 縄文人はアスファルトをどのように利用したか?

第47図 縄文時代の人と地域のつながり②



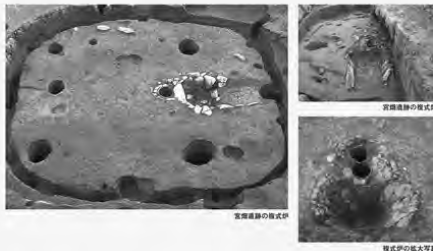
48-1 宮畑縄文むらに通じる道は？



48-4 大見出し



宮畑遺跡の中期のむらでは複式炉と呼ばれる炉が使われていました。複式炉は全国的に見ても非常に大型で、土器を埋めた炉、石圍いの炉を組み合わせたものです。

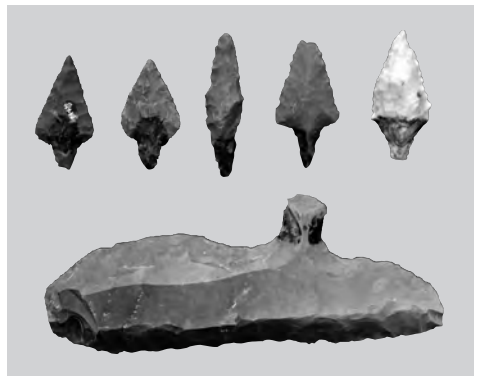


第48図 縄文時代の人と地域のつながり③

48-5 宮畑遺跡の複式炉



48-2 小さな土器に入ったアスファルト



48-3 アスファルトの付着した石器



49-1 複式炉の埋設土器

福島市内の複式炉のむら

Villages in Fukushima using bilateral stone fire pits

福島市内では縄文時代中期のむらが数多く見つかっており、宮畑遺跡と同じように竪穴住居には複式炉が造られています。しかし、家に関わる風習に違いがあり、宮畑遺跡で特徴的な家を焼く風習がないむらもありました。

和台遺跡

縄文時代中期のむら。宮畑を中心とした縄文時代中期の遺跡が数多く見つかる。竪穴住居には複式炉が造られています。宮畑遺跡と同じように竪穴住居には複式炉が造られています。しかし、家に関わる風習に違いがあり、宮畑遺跡で特徴的な家を焼く風習がないむらもありました。

月崎A遺跡

縄文時代中期のむら。宮畑を中心とした縄文時代中期の遺跡が数多く見つかる。竪穴住居には複式炉が造られています。宮畑遺跡と同じように竪穴住居には複式炉が造られています。しかし、家に関わる風習に違いがあり、宮畑遺跡で特徴的な家を焼く風習がないむらもありました。

宇輪台遺跡

縄文時代中期のむら。宮畑を中心とした縄文時代中期の遺跡が数多く見つかる。竪穴住居には複式炉が造られています。宮畑遺跡と同じように竪穴住居には複式炉が造られています。しかし、家に関わる風習に違いがあり、宮畑遺跡で特徴的な家を焼く風習がないむらもありました。

愛宕原遺跡

縄文時代中期のむら。宮畑を中心とした縄文時代中期の遺跡が数多く見つかる。竪穴住居には複式炉が造られています。宮畑遺跡と同じように竪穴住居には複式炉が造られています。しかし、家に関わる風習に違いがあり、宮畑遺跡で特徴的な家を焼く風習がないむらもありました。

49-2 福島市内の複式炉のむら

土器を共有する地域の広がり

The expansion of the community sharing ceramic pottery

東北地方の南部には「大木式土器」と呼ばれる型式の土器が広がっています。共通した土器の文様を持つ地域は、住居構造やまつりの風習を共有したり、人とのつながりが強かった地域と考えられます。

大木式土器圏と複式炉の分布

大木式土器圏を中心に広がる複式炉ですが、土器圏の周辺地域では、様相の異なる複式炉が見つかります。

大木式土器

加曾利E式土器

加曾利式土器

大木式土器

山形県の複式炉 (小反遺跡)

北陸の複式炉 (沖ノ原遺跡・新潟県)

東北北部の複式炉 (御所野遺跡・岩手県)

東北南部の複式炉 (和台遺跡)

49-3 土器を共有する地域の広がり

第49図 縄文時代の人と地域のつながり④

○平成26年度～ じょーもぴあ宮畑部分開園、現地での活用事業

○平成27年8月8日 じょーもぴあ宮畑全面開園

(2) (映像4)「宮畑遺跡と福島市の魅力 ～受け継がれし歴史遺産と風土～」

○吾妻連峰、阿武隈川、信夫山

○福島市の歴史

(縄文時代) 仙台内前遺跡、宮畑遺跡、(弥生時代) 台畑遺跡、(古墳時代) 月ノ輪山一号墳、

(中世) 医王寺、大森城跡、福島城跡

○阿武隈川の舟運 (福島河岸、旧米沢藩米蔵)

○福島市民家園 (養蚕)

○くだもの (桃、梨、ブドウ)

○福島市の四季と風土

・春 (種まきウサギ、桃の花、花見山、水芭蕉)

・夏 (磐梯吾妻スカイライン、吾妻小富士、浄土平、桃、わらじまつり)

・秋 (吾妻山の紅葉、不動沢橋、梨、稲荷神社例大祭、飯坂けんかまつり)

・冬 (土湯温泉、飯坂温泉の雪景色、こけし、鯖湖湯、高湯温泉)

第10章 活用事業

(1) 市民との協働による事業

①宮畑遺跡縄文まつり

平成15年度から、国史跡に指定された宮畑遺跡を市民に周知し、整備計画を情報発信することを目的に開始した。当初の縄文まつりは、宮畑遺跡の現地ではなく福島駅前のまちなか広場や福島市の文化施設を会場にして実施をしていたが、平成17年度からは遺跡の現地でまつりを開催している。

また、平成17年度からは、宮畑遺跡啓発実行委員会を組織し、市民代表5名の意見を取り入れながら事業を実施している。実行委員会では部会を組織し、それぞれの部会が事業を分担し、市内の関係団体とも連携しながら企画運営にあたることとなった。

平成19年度は福島市市制施行100周年の節目であるとともに、宮畑遺跡環境整備工事に着手した年度でもあることから、平成19年度を宮畑遺跡・市民・他市の子供達・ボランティアとの交流元年と位置付け3日間のイベントとして「宮畑未来フェスティバル」を開催した。宮畑未来フェスティバルでは、都市間交流の第一歩として岩手県宮古市、東京都荒川区、神奈川県川崎市の小学生を、地元の岡山・月輪・大波小学校の小学生と縄文探検隊が歓迎する「歓迎会」、都市間交流の小学生と遺跡ボランティア（青森市、秋田県鹿角市、富山県小矢部市）も参加し、宮畑遺跡の2つの謎をテーマにした講演、対談である「宮畑未来フォーラム」、宮畑遺跡史跡公園の現地での縄文まつりにあたる「宮畑未来広場」、園名柱「じょーもびあ宮畑」の柱立てを行った。この経験は平成20年度の福島市・飯野町合併記念事業「和台・宮畑縄文まつり」、平成21年度の縄文シティサミット in ふくしまと合わせて開催した「じょーもびあ宮畑まつり」等でも発揮されている。

現在は、実行委員会形式ではなく、福島市が直営で行うじょーもびあ宮畑まつりとなっているが、イベント実施時には当時の部会と同じような形式で、コーナーごとに役割分担を図りながら当日の運営をいただいている。

また、縄文まつりの部会経験者が、その後のボランティア組織の育成の土台となっており、現在も市民との協働による事業を実施する際の大きな後ろ盾となっている。

②宮畑遺跡の活用を考える会

平成17年度に、宮畑遺跡の整備と活用について、より多くの市民の声を反映するために開催したもので100名を超える参加者があった。同年は基本構想の策定にかかり、整備活用市民懇談会、学校教育活用懇談会を設置し関係者による検討は進めていたが、不特定多数の市民との意見交換は初の試みだった。

参加者からの意見により、宮畑遺跡の学術的な価値の公開、子供たちの屋外活動、サポーターの組織化が期待されていることを確認し、「地域そして市民に愛される史跡作り」を行政だけが訴え

るのではなく、市民との協働により進めていくきっかけとなった。

(2) 教育活用事業

① 出前授業

平成13年度から、宮畑遺跡の位置する小学校2校で宮畑遺跡の出土遺物を実際に触れ、地域の遺跡を学ぶ学習である出前授業を開始した。平成16年度の「宮畑遺跡学校教育活用の手引き」の配布により、実施希望校が約30校に増加し、平成27年度は市内に所在する52校中40校程度で授業を実施している。

また開園後は、福島市の教育課程にじょーもぴあ宮畑学習を位置付け、じょーもぴあ宮畑での現地見学や縄文体験を実施しており、福島市内の小学校6年生はじょーもぴあ宮畑での学習を行える体制を整えている。

② 縄文探検隊

平成13年度に、市内小中学生8名が宮畑遺跡の活用を考えるワーキンググループとして組織したのが始まりで、平成14年度からは、縄文時代に関する体験を通して、宮畑遺跡を学ぶ活動を行う縄文探検隊に組織替えし、平成27年度も活動を行っている。現在は、市内在住の小学校5年生から中学校2年生について参加者を募集し、縄文時代や宮畑遺跡のフィールドワークを行っている。

(3) ボランティアの育成

① ふれあいボランティア宮畑グループ（～平成20年度）

福島市教育委員会では、平成元年度から平成24年度まで文化財ボランティア養成講座を開設し、ボランティアの育成を図っている。養成講座の参加者は2年間で10回程度の講座を受講し、修了生は市の文化施設等（福島市資料展示室、福島市民家園、宮畑遺跡活用事業）でのボランティアとして継続的に活動を行うこととしており、これまで11期までの養成講座を実施している。この養成講座の修了生のうち、宮畑遺跡活用事業に参画するふれあいボランティア宮畑グループがボランティア育成の契機となっている。

ふれあいボランティア宮畑グループは、縄文探検隊や縄文まつりなど、市民を対象とした事業での縄文体験（勾玉づくり、弓矢体験、火おこし体験）のサポートを主な活動としている。

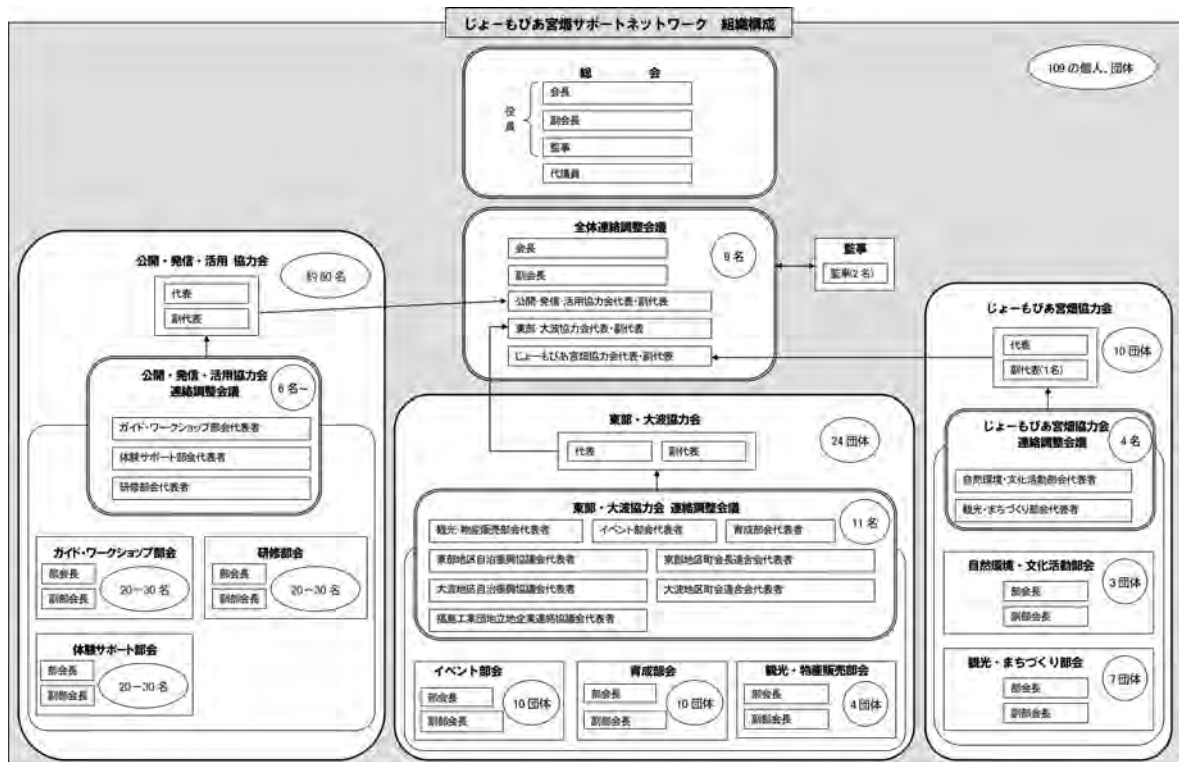
② じょーもぴあ宮畑サポートネットワーク（平成20年度～平成23年度）

平成19年度の市制施行100周年記念事業の際には、将来的な開園に向けて宮畑遺跡を活動の場とするボランティア団体の必要性が参加者からも出されていた。そこで、平成20年12月、約100名の個人と団体により「じょーもぴあ宮畑サポートネットワーク」として組織化したボランティア団体を設立した。

ア) 公開・発信・活用協力会は、来園者に宮畑遺跡の価値や魅力を伝える遺跡ボランティアで、案内ガイド、体験サポート、ワークショップの立案、じょーもぴあ宮畑だよりの編集、

自主研修を行っており、現在のじょーもびあ・遺跡の案内人の母体となっている。

- イ) 東部・大波協力は、東部地区・大波地区の特性、特産物、観光資源を活かした活用を進め、地域の交流・活性化につなげるためのグループである。地元地区の住民、自治振興協議会役員や町内会長、地区の関係団体により構成され、地区イベントの企画、育成行事の企画、観光・物産販売にかかる事業の検討等を行っている。
- ウ) じょーもびあ宮畑協力は、じょーもびあ宮畑のPRや誘客と進めるために、観光やまちづくりにつながるイベントの企画、芸術や文化振興につながる事業の検討などを行っている。



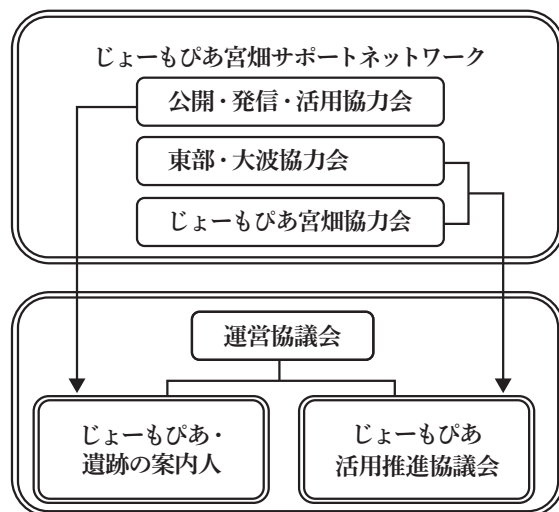
第50図 ボランティア組織図①

平成24年度には、施設に常駐する遺跡ボランティアとイベントごとに協力するボランティアは、それぞれ独立した団体として活動を行った方が、円滑な組織運営が可能になるとの意見が出されたことから、「じょーもびあ・遺跡の案内人」「じょーもびあ活用推進協議会」の2つの組織に改編することとした。

③じょーもびあ・遺跡の案内人

(平成24年度～)

じょーもびあ宮畑及び福島の歴史・文化をもとにした活用を図ることを目的に組織改編を



第51図 ボランティア組織図②

行ったものである。

現在、じょーもぴあ・遺跡の案内人はじょーもぴあ宮畑に常駐し、来園者への案内ガイド、体験サポートを行っている。また、市民参加事業として、ワークショップ、フィールドワーク、オープンカレッジ等の企画立案、当日運営を行っている。その他に、じょーもぴあ宮畑の保全にかかる活動として、施設周辺の除草作業、竪穴住居の焚火による維持管理作業をじょーもぴあ宮畑職員と協働で行っている。

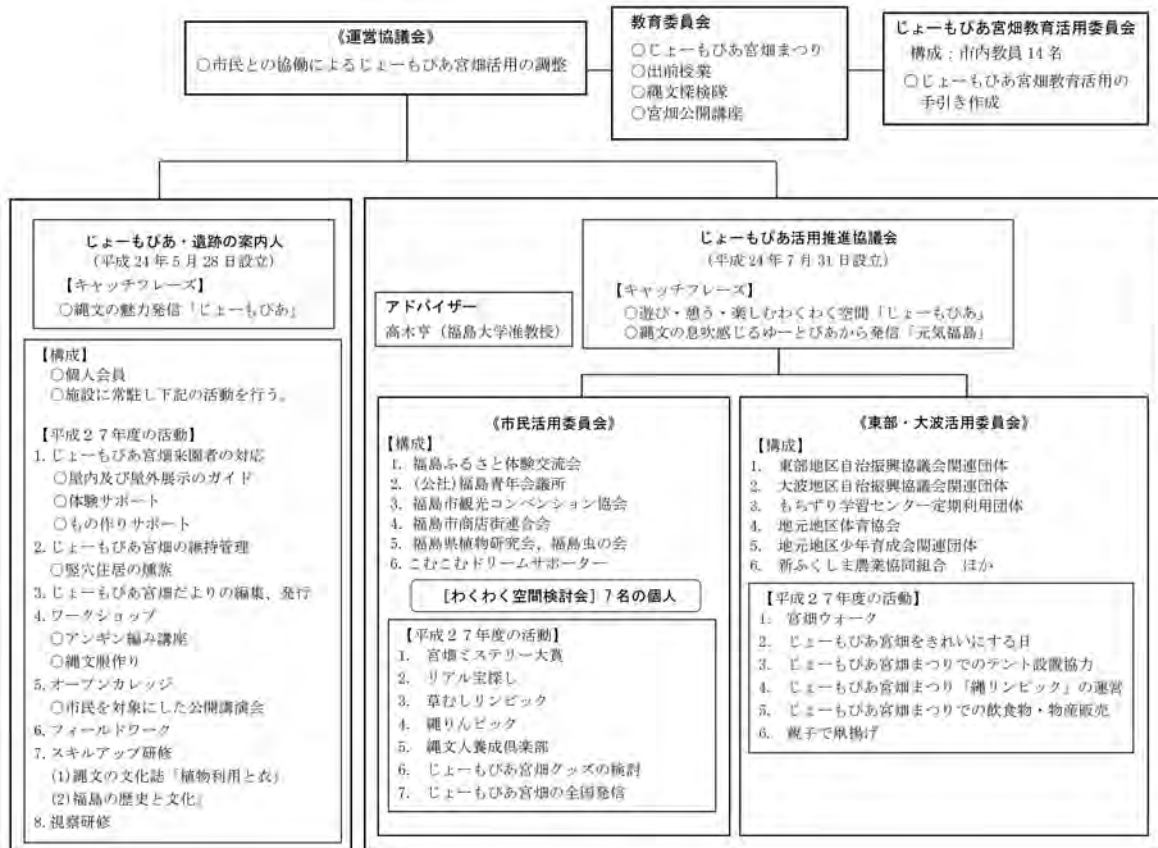
④じょーもぴあ活用推進協議会（平成24年度～）

じょーもぴあ宮畑サポートネットワークの東部・大波協力会、じょーもぴあ宮畑協力会が母体となっている。じょーもぴあ宮畑をふるさと自慢のひとつとして、その魅力をもとにまちづくり・地域活性化・都市間交流・観光振興等において活用を図ることを目的としている。

東部・大波協力会の、地域づくり部会では、地区イベント・子どもイベント、観光・都市間交流事業の企画を行い、毎年恒例となっている宮畑遺跡や東部地区の史跡名勝をめぐるウォーキングラリーである「宮畑ウォーク」、地元住民との連携により宮畑遺跡の除草作業を行う「じょーもぴあ宮畑をきれいにする日」、子供たちと一緒に凧作りをし広場で凧あげを行う「親子で凧づくり」などを実施し、地域に根差した拠点的な施設となるような活動を継続的に行っている。

物産販売部会では、じょーもぴあ宮畑まつり等イベントでの特産品の販売、将来的な朝市の開催、おもてなし弁当の検討、東部ブランド検討を行い、じょーもぴあ宮畑から地元物産を発信していくような活動を進めている。

市民活用委員会では、おもてなしイベント、わくわくイベントの企画を行っており、宮畑遺跡の2つの謎をテーマにした「宮畑ミステリー大賞」の募集と、入選作を収録した作品集である『縄文4000年の謎に挑む』を刊行した。また、宮畑遺跡と市内の観光資源との連携による地域回遊型のラリーイベント「アヅマとモモの不思議な宝探し」を実施した。また、縄文まつりでの「草むしりんぴっく」「縄りんピック」「縄文ウルトラクイズ」の企画、縄文土器づくりや縄文芋煮会を実施する「縄文人養成倶楽部」の実施を行っており、今後は、写真コンテストやじょーもぴあ宮畑グッズの検討を企画している。



第52図 ボランティア組織図③



53-1 縄文まつり



53-2 縄文まつり (縄りんピック、物産販売)



53-3 縄文まつり (草むしりんピック)



53-4 じょーもびあ・遺跡の案内人 (案内ガイド、体験サポート)



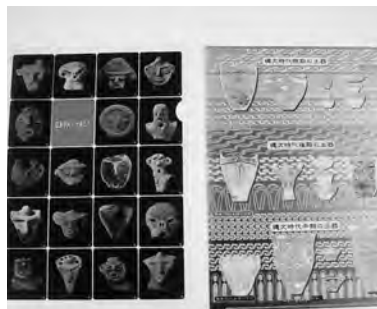
53-5 縄文探検隊



54-1 宮畑ウォーク



54-2 縄文人養成倶楽部



54-3 じょーもびあ宮畑グッズの検討



54-5 宮畑ミステリー大賞

史跡 宮畑遺跡
環境整備事業報告書

発行 福島市教育委員会
印刷 株式会社 山川印刷所
発行年月 平成28年3月
